

2005年 1月 第20号 By FP Compass

### 1. 新しい年に向かって

みなさん明けましておめでとうございます。

昨年中は大変お世話になり誠にありがとうございます。

堅い内容のニュースレターですが我慢して読んで頂いている?読者の皆様には大変感謝しております。作年末の挨拶回りをしていたとき「いつも読んでいます」と言わると嬉しくなってきます。もっと読みやすい紙面を目指して頑張りますので今後もよろしくお願ひ申し上げます。

平成16年もあっという間に過ぎ、平成17年の幕開けです。

昨年は法人化に成り立てでしたので、無我夢中で1年間が過ぎたように思います。

前半では、1名のスタッフが事情により退社したということもあり、思うように仕事が進まない状況でした。運良く6月より新たに1名(多田)が当社に来てくれました。

おかげで後半は何とか良いペースで仕事に邁進できたように思います。

もう一人、ベテランスタッフの深瀬は今まで会社の経理や事務を中心に仕事を展開していましたが、昨年は証券外務員2種の資格と損害保険特級の上級資格を取得し、また保険の保全・事故処理等の業務スキルもめざましい向上をしてくれました。

入社間もない多田も損保、生保の資格をすぐさま取得しました。今年はさらに上の資格を取得するという前向きな姿勢で燃えているようです。

やはり、心強いスタッフの力無くして仕事は出来ない事を痛感いたしました。

さて当社の今年の目標は、

①昨年から手掛けている、セミナー(マネーと保険とリスクマネジメント関連)を幅広く展開します。当社主催のみならず、共催または、企業の社員教育、投資教育、各種団体のセミナーも手掛けていきたいと思います。

②証券仲介業をスタートします。証券仲介業を行うことにより、今まで保険を使用した中・長期資産運用しか提供できなかったのが、長期はもちろん短・中期の資産運用商品を提供できるようになります。また、より幅広い資産の分散化(アセットアロケーション)が出来るようになりますのでリスクは軽減化され、収益を高めることができます。

③パートナーとの提携を強化します。各土業の先生方、そして、他の保険代理店との業務提携を推進します。

④ホームページを立ち上げます。

⑤最後に、最も大切なこと。お客様に最大限の満足を提供できるよう常に革新、創意と工夫と知識の習得、情報提供に努めます。

今年もよろしくお願ひ申し上げます。

## 2. 平成16年はやはり災害の1年だった。

昨年は台風上陸が10個を超え、日本各地に多大な風水害をもたらしました。

そして、中越地方の地震災害が発生し、間もなく上越新幹線が開通するという、災害復旧がある程度進捗してきたなと思っていた矢先、12月26日にインドネシアのスマトラ島付近でマグニチュード(M) 9.0というとてつもない規模の地震が発生しました。

M9.0のエネルギー規模は阪神大震災(M7.3)のエネルギー規模の約360倍ということで、過去100年以内に地球上で発生した地震では4番目に大きいエネルギー規模の地震となりました。

比較的浅い海溝型地震のため、インド洋沿岸国では、大津波が発生して4万人を超える死者・行方不明者数となり大災害となりました。

ちょうど、年末の休暇の時期と重なり、多数の日本人観光客がインド洋沿岸国に滞在している模様で、何名かは亡くなったと報道されています。安否が心配です。

ここで、海外旅行保険での天災（地震・噴火・津波）補償について述べたいと思います。

海外旅行保険では、基本的に天災補償は担保されます。航空機寄託手荷物遅延等費用特約とか航空機遅延費用特約などは天災における損害は補償されませんが、基本的だけがや病気の補償は天災（地震・噴火・津波）が要因でも補償の対象となります。

ただし、一般的な普通傷害保険や家族傷害保険などは、基本契約だけでは天災（地震・噴火・津波）によるケガは補償されませんが、天災危険担保特約を付けることにより、補償の対象となりますので、お付けすることをお奨めいたします。

ついでに、生命保険では、死亡・高度障害保険金は天災でも支払いの対象となります。

災害特約や傷害特約は原則的には支払いの対象とはなりませんが、その程度により保険金の全額または削減して支払いすることができます。

医療保険金も原則的には支払いの対象ではありませんが、その程度により保険金の全額または削減して支払いすることができます。

ちなみに、阪神大震災では、全額支払われています。

生命保険では、保険会社の財務に著しく影響が及ばない限り支払いの対象としていますが確実に支払う訳ではありません。

損害保険会社での、傷害保険では、天災危険担保特約という特約が存在しておりますので、特約を付帯していない場合は、当然ですが支払いの対象にはなりません。

天災リスクは地球上どこでも発生し、避けることの出来ないリスクです。

その発生場所や被害の発生地域がたまたま人口集積地になると今回のような、大ニュースとなります。人が住んでいない地域での地震や暴風雨は規模が大きいものでもニュースにはなりません。M8クラスの地震は、地球のどこかで毎年発生しています。

## 3. ここがへんたよ日本の保険

生命保険の証券を見させていただいた時、よく見かけるパターンは目先の保険料の安さが前面に出ている契約が大変多いと感じます。

保険料の軽減は最重要課題の一つとなります。しかし、目先の保険料にこだわり過ぎた場合、対応できるプランは、ほとんど定期保険または定期特約の更新型（更新時に保険料は上昇します）を選ぶ事になります。これは、生命保険の売り手側にも好都合の保障を構築して

いることになります。形式的な損得勘定でいい保険を勧めてくれたとの錯覚に陥りやすい。限られた期間の保障と割り切られ、更新時に保険料が上昇していくことを充分認知していて、結果的に生涯支払い保険料総額が高くなることも理解しているのであれば、短期間の定期保険や特約に加入することは、契約者が納得して判断することなので、異論はないです。でも、一生涯に支払う総支払い保険料が結果的に高額となることがほとんど認知されていないことや、さらに、更新時に保険料が上昇することさえも分からず人がかなりの確率でいる現実を見ると、やはり目先の保険料を追うあまり、または、保険外交員の言われるままに勧められているために、ほとんどが更新型とならざるを得ない状況となっています。

最低限ご自身の主張を言われてはいかがでしょうか。それは、…

①一生涯にいくら保険料を払わなければならないか。

更新後の予定保険料も聞いていれば、電卓でも簡単に計算出来ます。

②その保障はいつまであるか。

以外と中途半端な年齢で保障が切れる契約もあります。

③保険料は何歳まで払わなければならないか。

若年層でも終身払い（特に終身払いのガン保険や医療保険に多い）になっていないか。

老後を考えれば、出来るだけ保障は一生涯で保険料の支払いは60歳までに終了したい。

④キャッシュバリュー（解約返戻金）はいくらになるか。

総支払い保険料 - 解約返戻金 = 実質支払い保険料といえます。

出来れば実質支払い保険料はマイナス、つまり、支払った保険料総額よりも大きな金額を受け取る事が出来るかまたは、家族の誰かが保険金として受け取ることのできるものであれば、保険会社に支払った保険料以上の金額は確実に回収出来ます。

以上の項目を追加で聞き出したり、または、設計書などで数字のシミュレーションが出ていればそれを見ながら電卓をはじいて見れば、その差は歴然とします。

そこに気が付くことにより、生涯の保険料支払い総額は半分以下または年齢によっては三分の1以下になることもあります。

そして、さらにキャッシュバリュー（解約返戻金）が飛躍的に増え、全く別物と言えるくらい変わることもあります。

とにかく、電卓をもって総支払い保険料を計算することが第一歩となります。

目先の保険料の安さにこだわるか、総支払い保険料の安さにこだわるか決めるのはあなた自身です。

#### 4. 当社スタッフ今年の抱負

♥深瀬幸子（乙女座）

F Pに対する期待をものすごく感じるようになりました。その期待に少しでも応えられるよう頑張りたいし、機会があればF Pの資格を取得してみたいと思います。

今年はT L C（生保大学課程）にチャレンジします。

♥多田恵子（蟹座）

今年は堅実にスキルアップしていくことを目標にします。

基となる心身を鍛えるため、日々“ダンベル”と“トレーニングマシーン”で体力づくり。就寝前の読書に励みます。…実はおばさんからの脱却が目的です。

## 5. 18歳～45歳までのマナー＆保険講座開催

先月号でもご案内しましたセミナー、今月号でも案内しちゃいます。

ミニコミ紙の“ばぐ”に刺激的な広告を打ちました。

『毎月1万円を捨てる勇気がありますか？…捨てる勇気のある方は聞く必要はありません。

毎月1万円でも大きく差が出る“18歳～45歳までのマナー＆保険講座”』

自分としては刺激的と思いましたが皆様いかがでしょうか。

このニュースレターで今まで書いたリスクマネジメントや保険の様々な事柄を簡潔にまとめたつもりのセミナーになっております。

誰もが、無理なく簡単に金融資産を殖やすヒントが盛りだくさんです。夢の実現に向かってその扉を開いてみませんか。

日 時 1月コース 平成17年 1月15日（土） 午後2時～4時

2月コース 平成17年 2月12日（土） 午後2時～4時

3月コース 平成17年 3月26日（土） 午後2時～4時

（いずれも午後1時30分受付開始）

場 所 山形ビッグウィング402号室（4階）

お申し込みは下記の所まで電話・ファックス・Eメールにてお願いします。

住所、氏名、性別、生年月日、電話番号をご記入または口頭にて。

受付後に受講票を郵送致します。受講票は受講時にご持参して下さい。

ご注意：締め切りは各コースの一週間前までとなります。

今回も受講料は無料ですが、4月以降は有料となりますのでこの機会をお見逃し無く。

耳より情報：当社では、無料出張セミナーを承ります。

例えば、会社の従業員に対する“マナー”や“リスクマネジメント”的セミナー。

日本版401K導入前の投資教育にも活用できます。

仲の良いお友達と“マナー”や“保険証券の見方”や“賢い保険の選び方”など  
ご家庭に出向いてセミナーをいたします。（2名以上であれば可能です）

各種団体向きにも上記の内容にてまたは関連した内容のセミナーをします。

ただし、資料代は有料となる場合もあります。

発行者

有限会社 FPコンパス

武田幸夫

〒994-0054 山形県天童市荒谷2589

TEL 023-654-8831 FAX 023-654-8832

E-mail tide@mm.neweb.ne.jp